

「社会システム産業」の新たなステージへ



セコムグループでは、お客様のニーズに即した、トータルサービスを追求しています。そして、それを可能にするのはセコムグループの総合力です。

第一に、セコムでは、セキュリティサービス事業で見られるように、研究開発から製造、プランニング、設置工事、24時間監視、緊急対応、メンテナンスまでをグループ内で一貫する体制を築いています。これにより、徹底かつ一貫した品質管理と、お客様の声を即座にサービスに反映する柔軟な組織が実現しました。

第二に、セコムグループは、セキュリティ、メディカル、保険、情報系、地理情報サービス、教育などさまざまなサービスを提供できる体制を築いており、相互に関連するこれらの事業を組み合わせることにより、セコムにしか提供できない、独自のシナジーを持ったサービス・商品の提供が可能となっています。

このような総合力をもとに、サービスを個別に提供するだけでなく、複合化・融合化し、ひとつのシステムとして提供することによって、お客様にとってより安全・安心、かつ便利で低コストのサービスをお届けできます。そのために、セコムグループは「社会システム産業」をめざしています。それでは、お客様の側から見た「社会システム産業」とは一体何か。それは、「困ったときはセコム」「困らないようにセコム」というように気軽に何でも相談できる窓口であると考えます。こうした観点に立ち、セコムはお客様から寄せられた声をもとに、お客様の安心・便利・快適をサポートするサービスを提供しています。

ここでは、近年のセコムグループの取り組みを、家庭向け、事業所向け、医療機関向けのサービスを中心にをご紹介します。

家族の安心・便利・快適をサポート ～家庭向けサービス～

留守宅だけでなく、在宅・就寝時のセキュリティも強化

人々が安心して暮らせる家庭こそが「社会システム産業」の原点である、とセコムは考えています。

セコムは、1981年に日本で初めて家庭用安全システム「セコム・ホームセキュリティ」を発売して以来、ご家庭に質の高い「安全・安心」を提供し続けてきました。犯罪件数の増加もあり、ここ数年「セコム・ホームセキュリティ」は、急速に普及しています。最近では、犯罪の凶悪化が進み、ご家庭においても空き巣が居直り強盗化したり、在宅・就寝時を狙った強盗侵入が増えています。そこで、セコムは「セコム・ホームセキュリティ」の契約先や一般の方々を対象に、在宅時の安全をさらに強化する各種サービス・商品を発売しました。

そのひとつが、窓ガラスを割って侵入しようとする賊を防ぐために、防犯合わせガラスとセコムのガラスセンサーを一体化した「SECOMあんしんガラス」です。破壊行為に対して一定の時間をかせぎ、ガラスセンサーで異常を検出してセコムに通報します。また、センサーを内蔵し、スチール製で強化処理が施された「セキュリ

ティ面格子」は工具を使った破壊行為に対して強く、窓からの侵入を困難にします。そのほか、「ストロングドア」はこじ開け等に対して一定時間耐えられる強度を持った扉で、強盗による寝室への侵入を防ぎます。

セコムは、このような数々の物理的防護策をご提案することで、ご家庭の安全強化を図っています。

お客様のご要望に応え、 メディカルサービスをさらに充実

セコムは、「セコム・ホームセキュリティ」を提供し始めた当初から、「家庭の安全」と「家族の健康」をトータルに守ることで、より安心感を高められると考えていました。

こうした考えのもと、1982年から「セコム・ホームセキュリティ」にオプションで救急通報サービス「マイドクター」を、1992年からは標準サービスで電話健康相談サービス「ほっと健康ライン」を付加してきました。

そして、2003年秋から、「セコム・ホームセキュリティ」の契約先からの予防医療・救急医療分野のサービスに対するご要望にお応えするために、会員制医療サービス「セコム・メディカルクラブ」を開始することにしました。これは、「予防医療関連サービス」「救急医療関連サービス」「医療機関・専門医などの紹介サービス」の、



3つを柱にしています。将来的には、「セコム・ホームセキュリティ」のお客様だけではなく、事務所向けセキュリティシステムの契約先の社員の皆様も対象にしていく予定です。セコムは、お客様の毎日の暮らしを、セキュリティとメディカルの面から、トータルに守っていきます。

また、セコムは病気や寝たきりの方々に、慣れ親しんだ自宅という環境での「在宅医療」「在宅介護」の選択肢を提供し、安心・便利・快適を追求しています。

その在宅医療サービスをさらに発展させたのが「携帯型ヘルスマニターサービス」です。その第一弾として開始したのが、小型・軽量の携帯型心電計を用いた「心電図伝送サービス」です。このサービスを利用すると、不整脈などの患者さんが、携帯型心電計を胸に当てて簡単なボタン操作をするだけで、その場で簡単に心電を測定、記録することができます。記録したデータをセコムの心電図受信センターに送信すると、センターではそのデータを心電図に変換して、専用サーバーから医療機関などの指定先にファックス送信します。不安を感じたとき、自覚症状が出



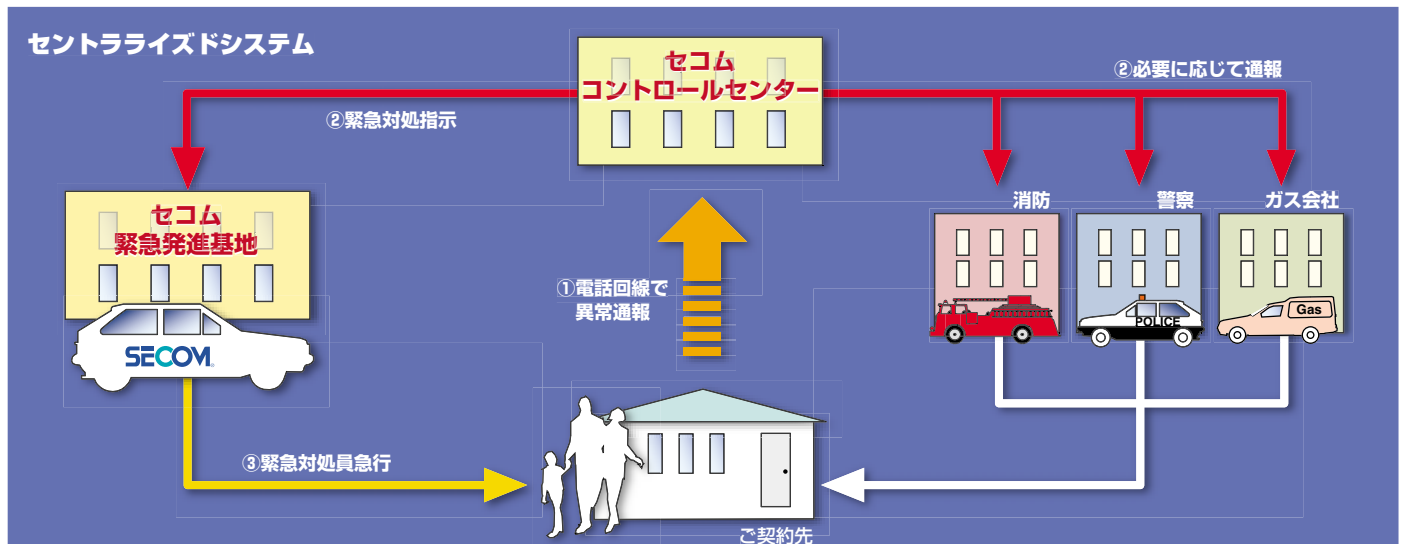
たときなどに、患者さんが自宅だけではなく外出先でも健康状態を測定し、記録できるこの画期的な「心電図伝送サービス」は、よりパーソナルな健康管理サービスを実現します。セコムでは、循環器専門医によるコンサルティングサービスや、呼吸器系分野など、他の疾病

分野にも「携帯型ヘルスマニターサービス」を開発し、サービスラインアップを増やしていく予定です。

今後、在宅医療は、医療の選択肢のひとつとして、ますます重要度が増すものと思われます。セコムは、この事業を通して、だれもが安心して医療を受けられる社会システムを構築していきます。

セキュリティ、メディカルのノウハウから生まれたセコム独自の保険商品

セコムは、セキュリティサービス事業を開始した当初から、事前の備えと事後の補償があって、初めて真に「安全・安心」を提供できると考えていました。当時の日本では、セコムのような一般企業が保険事業に参入することは難しい状況でしたが、1990年代に入り保険事業の規制緩和が進んだことで、セコムは損害保険事業分



野に参入しました。以来、セコム損害保険(株)は、保険とセキュリティを組み合わせた独創的な商品を次々と発売し、お客様からご好評をいただいています。主な商品としては、ホームセキュリティ割引が可能な、火災などに備える家庭向け住まいの保険「セコム安心マイホーム保険」、交通事故の際、24時間365日セコムの緊急対応員が事故現場に急行する「NEWセコム安心マイカー保険」などがあります。

また、保険とメディカルのシナジー商品として発売した、ガン治療のための自由診療保険「メディコム」も大きな注目を集めています。ガン治療では、症例により最も有効と思われる治療方法が異なるため、公的健康保険の枠にとらわれず、お客様にとって最適なガン治療を選択できることが望ましいところです。そこで、セコムが開発したのが自由診療保険「メディコム」です。この保険では公的健康保険が適用されない診療となる「自由診療」の費用を補償します。さらに、公的健康保険を利用したガンでの入院や高度先進医療による治療に対しても実損害額をお支払いすることで、自由診療・公的健康保険診療を問わず、経済的な負担を心配することなく、治療を受けることができるようになります。また、ガン治療に定評のある医療機関の紹介、指定のガン専門医との連携による医療相談やセカンドオピニオンの提示などのサービスも受けられます。保険とメディカルの両面からご契約者に「安全・安心」を提供する「メディコム」は、セコムグループならではの商品といえます。

人、車からペットまで、 多様化する「ココセコム」のサービス

セキュリティ、情報系、地理情報サービスの各事業の融合によって、家屋だけでなく、人、車両、物などの移動体にまでセキュリティの領域を拡大することで新たな市場を創出したのが「ココセコム」です。「ココセコム」

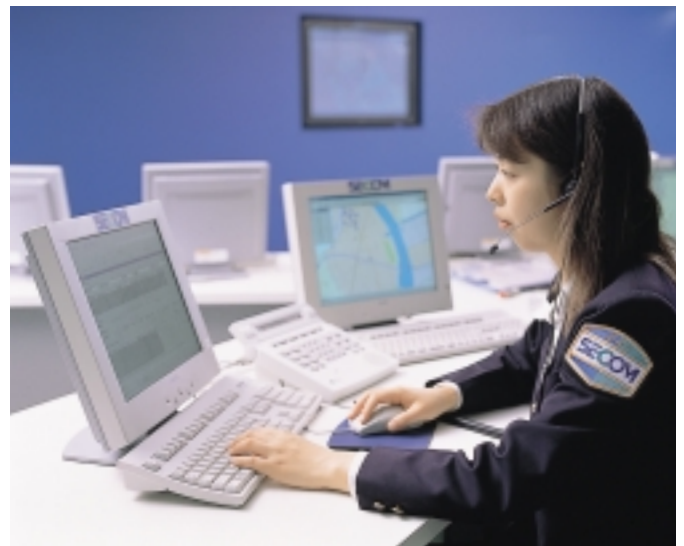
は、誘拐事件・老人の徘徊など家族の行方不明に対する不安感の増大や、二輪車・自動車の盗難増加といった社会問題を解消するために開発されました。GPS(全地球測位システム)衛星と携帯電話基地局からの情報による位置検索技術を利用し、これまでに培ったセコムグループのノウハウ、技術、ネットワーク

を活用した、移動する人物・車両向けのセキュリティサービスです。お客様からの要請で、セコムの緊急対応員による現場急行サービスもご利用いただけます。

2001年4月のサービス開始以来、セコムはお客様の多様なニーズに応じて、「ココセコム」のサービスの多様化を図ってきました。「ココセコム・カーアラーム」は「ココセコム」のサービスに移動監視機能や盗難抑止サービスを付加したも

のです。携帯電話と一体化した「ココセコムEZ」「ココセコム-i」では、救急信号サービスも提供しています。

さらに、2003年には「通報サービス付きココセコム」を新発売しました。これは、犯罪件数が増加する中で、外出時などに通報・連絡が可能なサービスを求める声にお応えしたものです。緊急事態に遭遇した際、専用



通信端末の簡単なボタン操作をするだけで、セコムに緊急通報することができます。

また、家族の一員である大切なペットの安全を見守る、ペット用「ココセコム」も発売しました。これは、従来の「ココセコム」携帯端末の小型軽量化を図り、世界最小・最軽量のGPS通信端末を開発したことで実現しました。ペット用「ココセコム」を装着していれば、大切なペットの行方が分からなくなったとき、高い精度でペットの位置検索を行い、飼い主自らが捜し出すことができます。ペット用「ココセコム」は、国内メディアが紹介すると同時に大きな反響を呼び、外国メディアもレポートし、世界的な関心を集めました。

「ココセコム」は、これからもさらに進化を続けます。

**幅広い分野で社会に役立つ
独創的な商品・サービスを提供**

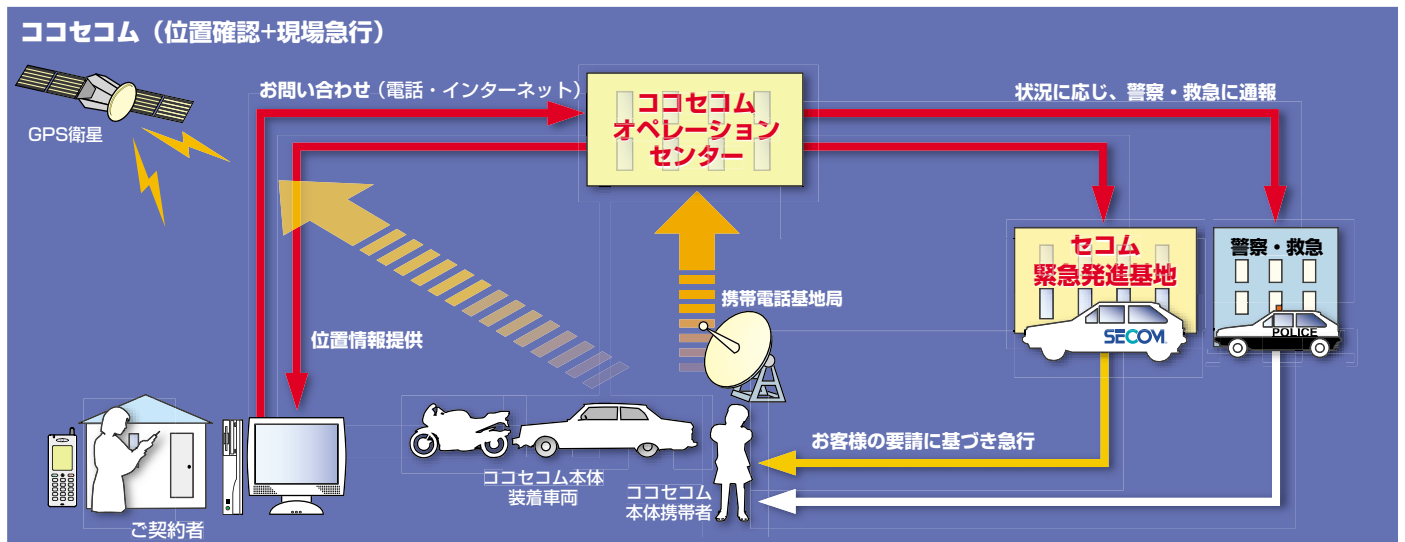
セコムは、教育の分野でも社会に貢献する事業を展開しています。教育用ソフトサービス会社であるセコム

ラインズは、学校向けに教育用コンテンツの配信サービス「ラインズeライブラリアドバンス」を発売しました。これは学習履歴型ドリル教材を中心とした教育用コンテンツをサーバーから配信するサービスであり、学校における学習活動のさまざまな場面で活用すること

が期待できます。また、学校との追加契約で児童・生徒がご家庭のパソコンからでも、学校と同様の学習ができるサービスもあります。これにより児童・生徒一人ひとりの学力に合わせた学習・指導が可能となりました。また、このサービスは文部科学省の推進する「普通授業における基礎学力向上のためのITの効果的活用」に対応するものであり、今後さらなるマーケットの拡大も期待されています。



一方、セコムグループは、生活の基本である「住」と「食」も手掛けています。グループ会社のセコムホームライフ(株)が、「安心と快適のマンション」をコンセプトに、セキュリティを完備して居住者の安全に配慮したハイグレードマンション「グローリオ」シリーズを販売しています。また「セコムの食」シリーズでは、可能な限り化



学肥料や農薬、食品添加物を使わない、おいしくて体によい食品を厳選し、カタログやインターネットを通じて販売しています。いずれもセコムならではの、生活に密着したユニークな商品です。

ご契約先を24時間バックアップ ～事業所向けサービス～

凶悪犯罪に対抗し、 新システムをいち早く開発

近年、犯罪件数は増加傾向にあるとともに、犯行の組織化・凶悪化・多様化が進んでいます。このような犯罪を防止するために、セコムはこれまで培ってきた優れた技術とノウハウを活用して、新しいシステムをいち早く開発し、次々と市場に投入しました。

日本では、盗難建設機械を使用して、独立型ATMブースや公道に面したATM店舗などの建物自体を破壊し、短時間でATMや収納現金を強奪していく悪質な犯罪が急増しています。これに対応して発売したのが、日本初の「ATM店舗セキュリティシステム」です。このシステムは、ATM設置店舗にショベルカーなどの建設機械が近づくとそれを検知し、音と光で威嚇し、破壊行為を抑止します。この革新的なセキュリティシステムは、セコムが長年培ってきたセンシング技術と画像認識技術を用いて異常を察知し威嚇および緊急対処を行うもので、これまでにない早期対応を実現しています。

「ATM店舗セキュリティシステム」と合わせて、店舗構造とATM設置構造を強固にする「物理的防護ユニット」も発売しました。この2つを併用することで、ATMや収納現金の強奪は極めて困難となります。さらに、建設機械の盗難を防止する建機用「ココセコム」も発売しました。これは、建設機械が駐車位置から移動されると、ココセコムオペレーションセンターに異常信号が送信

され、センターからお客様に異常情報およびその位置情報をお知らせするものです。これらのシステムを提供することで、セコムは建設機械の盗難と建設機械による短時間犯行の撲滅を図っています。

短時間犯行は、ATM店舗だけではなく、最近、

事務所や店舗などの金庫や現金、高額商品を狙った犯罪は、わずか数分のうちに犯行を終えてしまう傾向にあります。このような短時間犯行に対抗して、セコムでは侵入者の画像を監視し、音声で警告が行える「セコムAX」を提案してきました。その「セコムAX」などに付加して、より確実にお客様の財産を守るために発売したのが、短時間犯行抑止システム「フォギープロテクション」です。このシステムは、瞬時の発煙と大音響で侵入し

た賊を威嚇し、視界を遮断することで犯行を中止させる、画期的な威嚇システムです。発生する煙は、人体やOA機器への影響はありません。「フォギープロテクション」は、「セコムAX」などのシステムと組み合わせることで、短時間犯行の抑止をさらに効果的に実現します。

フルデジタル画像監視システムと 最新技術を活かした出入管理

セコムは、監視カメラシステムの最新技術を結集して、日本初のフルデジタル画像監視システム「D-CCTV」を実現しました。カメラから記録装置までの映像・音声信号をすべてデジタル化することで、画質劣化がまったくない鮮明な映像を、表示・記録できるようになりました。最近、金融機関をはじめ、コンビニエンスストア、大型商用施設、駅構内、公共の建物・施設などにおいて、利用者の安全確保や犯罪抑止のために、監視カメラシステムが導入されています。これまでの監視カメラシステムは、画質の劣化が大きな問題となっていました。が、「D-CCTV」は、人物の特定など詳細な監視が必要な場合に有効です。



また、指紋照合システムの認知度の高まりやニーズの増大に応え、出入管理システムの最先端技術を活用して商品化したのが、指紋照合システム新「セサモID s」です。指紋照合精度や読み取り性能を大幅に向上させ、コストダウンと多彩な機能を付加して、競争力をさらに強化しました。

「トータルサービス」で 安心と低コスト化を実現

セコムは、主にビルなどの大型物件を対象に「トータルセキュリティプランニング(TSP)」を提案しています。TSPとは、オンライン・セキュリティシステムに加えて、安全商品、損害保険、設備監視、および保守点検サービスをパッケージにした、トータルサービスです。セットで提供することで、お客様にとっては、低コスト化、窓口の一本化、セキュリティグレード向上などの大きなメリットが生じます。セコム独自のこのビジネスモデルは「社会システム産業」の好例といえます。

近未来のセキュリティをめざして 「セコムロボット」を開発

セコムは現在、セキュリティや医療、福祉などの分野で、人にしかできない移動を伴う行為や作業を代替させる、すなわち「人の行動の代わりにできる」ロボットの開発をめざしています。そこで現金護送用として開発したのが、「人間と同じスピードで行動できる」「人間と同じように、階段・スロープ・段差などを移動できる」「障害物をよけながら指示者を追跡できる」本格的な指示者追尾型ロボット「セコムロボット」です。これは、セコムIS研究所のロボットやセンシング技術の研究成果と、開発センターのシステム開発で培った技術力を、最大限に発揮して実現されました。この「セコムロボット」は、音声により指示者(現金護送隊員)を認識して起動し、貴重品運搬の際、平地はもちろんスロープや階段も走

行、ロボット自身が障害物を認識・回避しながら指示者を追尾していきます。さらに緊急時には、威嚇音・音声に加え、電撃装置や発煙装置などによって、現金や貴重品を襲撃犯から防御する機能を持った近未来型のロボットです。

コンピュータ犯罪やデータ漏洩を防ぐ サイバーセキュリティ

サイバーセキュリティは、物理的なセキュリティと並んで重要なネットワークのセキュリティです。セコムは、インターネットが普及し始めた当時から、サイバーセキュリティ事業に参入しました。それ以来、コンピュータ・ネットワーク社会の発展に対応して、ネットワーク上の脅威などを監視する「監視サービス」や、電子商取引や電子申請な

どのインフラとして高い信頼性を提供する「電子認証サービス」、安全なネットワーク環境とお客様のサーバーの安全な拠点を提供する「セキュアデータセンター」など、お客様のネットビジネスの安全性と信頼性向上のための高品質なサイバーセキュリティサービスを提供しています。



「監視サービス」では、ウイルス発生の監視や対策を徹底する「セコムウイルス監視サービス」や、企業・組織の情報システムへの不正アクセスを監視する「セコム不正侵入検知サービス」など、一般の企業や組織が行うには負担の大きい、専門家による24時間365日常時監視体制を整え、迅速な対応を可能とし、さらに被害時の補償まで提供しています。

「電子認証サービス」では、ホームページ上に実在証明と暗号化通信を施す「セコムパスポート for Web」をはじめとする電子証明書の発行サービスや、電子認証局の構築・運営を代行する受託サービスを展開しています。世界大手金融機関の電子認証標準規格「アイデントラス」仕様に基づいた電子認証局の構築・運用を邦銀大手4行から受託、またGPKI（政府電子認証基盤）の実績も誇っています。

さらに、「セキュアデータセンター」では、堅牢な建物と厳格な入退出管理などの物理的セキュリティと、「監視サービス」や「電子認証サービス」などのサイバーセキュリティ、豊富なネットワーク構築・運用ノウハウなどを結集し、お客様に安全なネットビジネス環境を包括的に提供するサービスを展開しています。

現在、政府が「e-Japan重点計画」を推進したことで、地方公共団体でも「電子自治体」の構築が急速に進められています。「電子自治体」とは、インターネットを行政サービスに活用することにより、住民がさまざまな行政サービスを便利に利用できるようにして、行政サービス自体の効率化も可能にする仕組みです。この「電子自治体」では、徹底した個人情報保護が求められるため、「セキュリティ」が重要視されると同時に、その運用に制約があります。そのようなニーズに応えるためにセコムが開発した「セコム情報金庫」は、設備異常、盗難、破壊、火災、水災、電磁波、地震、持ち去りといった物理的な脅威や、不正侵入、ウイルス、なりすまし、機密漏洩といったネットワーク上の脅威に対して、

セコムが長年培ってきたフィジカルセキュリティとサイバーセキュリティのノウハウを融合させた“トータルセキュリティ商品”です。セコムは、「セコム情報金庫」を「電子自治体」を展開する地方公共団体をはじめ、一般企業にも販売しています。



地理情報システムを活用して、 企業の経営活動をサポート

移動する人物・車両向けセキュリティ「ココセコム」を法人向けに開発した「ココセコム・Gマネージャー」が、車両の運行管理や社員管理に威力を発揮しています。これは、管理したい複数の車両や人物の位置を一括検索できるため、営業員やメンテナンス要員を多数抱える企業、

運送会社、タクシー会社などの業務効率化、顧客サービスの向上、セキュリティの強化に貢献しています。

また、航空写真測量とGIS（地理情報システム）の分野で最大手のパスコは、そのGIS技術に基づき、民間企業を対象とした「経営ナビ」シリーズを提供しています。これは、統計データや企業内に蓄積された顧客情報など



を電子地図に取り込み、トップマネジメントの経営分析から営業や顧客サービスなどの日常的な業務支援まで、あらゆるビジネスシーンで企業の経営活動をサポートするサービスです。

セコムは、これらのサービスにより、オフィスのセキュリティだけでなく、企業の収益性向上にも貢献しています。

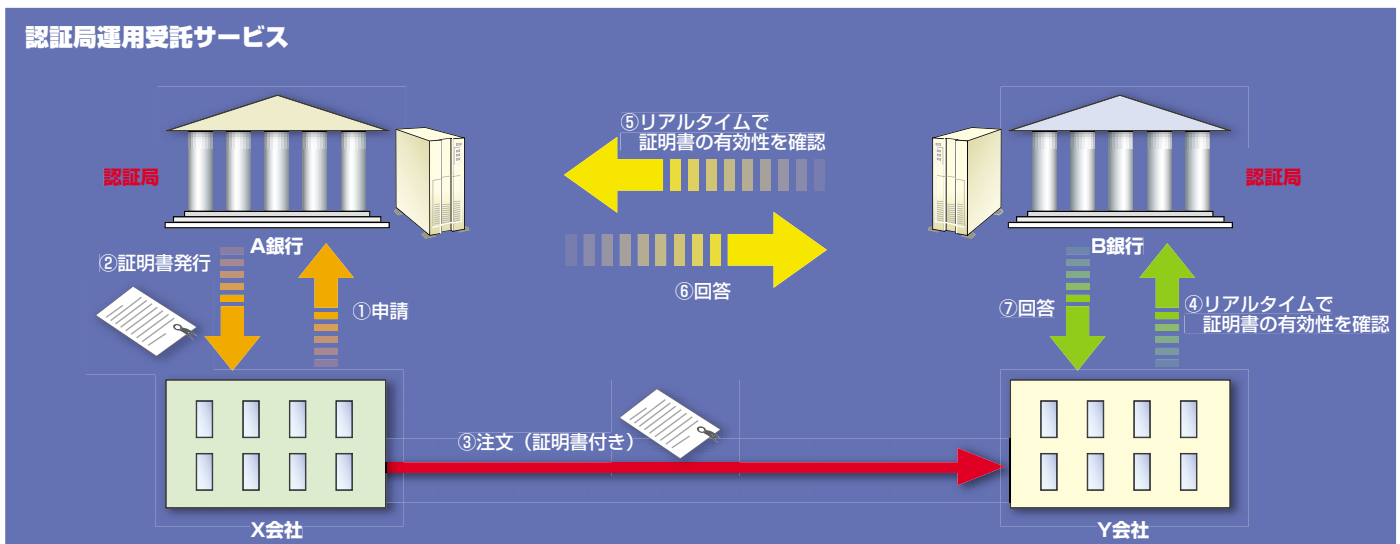
医療業務を包括的に支援 ～医療機関向けサービス～

在宅医療を推進する医療機関に支援プログラムを提供

「健康」の視点から「安全・安心」を提供するメディカルサービス事業は、「社会システム産業」の重要な柱のひとつです。こうした考えのもとに、セコム医療システム(株)は、日本初の本格的な在宅医療サービスをはじめ、さまざまなメディカルサービスを提供しています。

現在、日本の医療は高齢化の加速や財政の逼迫により、大きな転換期を迎えています。そのひとつの現れとして、厚生労働省は医療機関での長期入院を抑制するために、入院日数が延びるほど、病院に支払われる

医療費が減少する仕組みを採用しました。それにより、早期に退院した患者さんが自宅で療養する上で必要な在宅医療が、大きく注目されています。セコムでは、このような問題を予測し、1991年から在宅医療サービスとして、24時間対応の「訪問看護サービス」と無菌調剤した輸液などを提供する「薬剤提供サービス」を開始しました。1999年からは、在宅医療を普及させるために不可欠な訪問診療を行うクリニックの整備と、運営するためのノウハウを蓄積してきました。その蓄積したノウハウを活用して、セコム医療システムは、新規に在宅医療中心のクリニックを開設する医師に対して、開業・運営を支援する事業を本格的に開始しました。今回提供したプログラムは、クリニックの開業に必要な実務をお手伝いする「開業支援プログラム」と、患者獲得のための営業活動や診療報酬の請求業務などを支援する「運営支援プログラム」から構成されています。このプログラムを活用していただくことで、クリニックを運営する際に医師にかかる負担を可能な限り軽減し、医師が医療に集中できる環境づくりをサポートしていきます。



医療機関への人材紹介事業を通じて

医療の向上に貢献

セコム医療システムは、病院やクリニックをさまざまな角度から支援する事業を展開しています。日本の医療界においては、今後、医師の卒後研修制度の変更や国立大学の独立行政法人化などに伴って、医療人材の流動化が進み、医療機関は診療報酬の削減などで、経営環境が一段と厳しさを増すと思われる。その結果として、民間病院を中心に、経営強化のために優秀な医師や医療機関経営管理者を求めるニーズが高まるものと見込まれます。そこで、医師および医療機関経営管理者を対象とした医療人材紹介サービスを開始し、人材面からも日本の医療の向上に貢献していきます。



には、最適のシステムといえます。

セコム医療システムでは、ネットワーク社会ならではの医療支援システムも提供しています。院内にサーバーを設置しないASP型(ソフトウェアをインターネットを通じて配信するシステム)の「セコム・ユビキタス電子

カルテ」「セコム医事システム」に加え、今回新たに日本初のASP型「医用画像管理システム」を開発しました。その仕組みは、「セキュアデータセンター」に大型画像サーバーを設置し、高速インターネットを通じて、CT(コンピュータ断層撮影装置)やMRI(磁気共鳴画像装置)といった画像診断装置からのデジタル画像データを医療機関に設置した装置を經由してセンターに送信・保管するというものです。保管された医用デジタル画像

データは、インターネットに接続されている診療所の端末や専門病院の端末から、Web上で参照することができます。予防・診断・治療・経過観察の場面では、以前から患者さんの医用画像データがいつでもどこからでも参照可能なネットワーク環境が求められていました。セコムは、「医用画像管理システム」をはじめとするASP

医療事故防止をめざして

リスク分析用の新システムを開発

近年、日本で大きな問題になっているのが医療事故です。医療事故を防ぐためには、事故が発生したときに、その直接の原因を追及するだけではなく、医療機関が普段から抱えている問題や環境など、事故の背景にある顕在化していない問題のリスク分析する必要があります。そこで、セコム医療システムが東北大学医学部附属病院と産学共同で開発して販売を開始したのが、「メディカル・リスクマネジメントシステム」です。このシステムは、院内に設置されている端末から、医療中のミスに関する情報を収集、さらに事故に至らなかったミスと事故につながってしまったミスとに分類し、タイムリーに分析・報告できるレポートシステムと、リスクを科学的に分析して潜在危険度を数値化するリスク分析システムから構成されています。「メディカル・リスクマネジメントシステム」を活用することで、リスクへの対応が可能となり、医療事故の防止に役立ちます。院内のリスクマネジメントの構築に悩む医療機関など



型サービスの提供により、ネットワークを活用した医療機関の業務改善をサポートしていきます。

「社会システム産業」の新たなステージへ

セコムグループのサービスは、従来のセキュリティ事業という枠組みを超えて、非常に多岐にわたっています。

このような事業展開を可能にしたのは、さまざまなサービスの契約を通して築かれた「お客様とのネットワーク」であると考えています。つまり、お客様から信頼され、お互いのコミュニケーションが取れるようになって初めて「社会システム産業」の構築、拡充が可能になるのです。良好なリレーションを維持することで、お客様から他の分野のことについても相談を持ちかけていただけるようになり、そこから新しいサービスが生まれていきます。

セコムグループは、お客様の立場に立った最適なサービス・商品を提供し、「セコムにしてよかった」「セコムだから安心だ」と実感していただけるように、絶えず前進を続けます。

セコムの歴史は、「世の中にない」「社会に役立つ」革新的なサービス・商品を生み出すことによる、新たな市場創出・開拓の歴史といえます。各事業の複合化・融合化による具体的な新サービス・新商品が登場し、「社会システム産業」の構築は、新たなステージに入りました。「社会システム産業」の本格展開を加速させているセコムグループのこれからの活躍に、ご期待ください。

